

別紙

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

- (1) 事業所の名称 ツネイシカムテックス株式会社 福山工場
- (2) 事業所の所在地 広島県福山市箕沖町107-5
- (3) 業種 産業廃棄物処分業
- (4) 事業所位置図
別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成25（2013）年度を基準年度とし、令和4（2022）年度から令和12（2030）年度までの9年間とする。

3 計画の基本的な方向

1 基本的な考え方

当社は、環境の保全を経営の重要課題と位置付け、環境に配慮した事業活動に努め、環境への負荷の低減を推進することにより、持続可能な社会づくりに貢献します。

特に、今日の環境問題の中でも、とりわけ重要視されている地球温暖化防止については、自らの事業活動のみならず、当社の製品を使用する消費者のことも考慮し、温室効果ガスの排出抑制に努めていきます。

2 方針

- 省エネルギー、省資源の推進
- 再生可能エネルギーの導入促進
- 環境にやさしい製品の提供
- 廃棄物の排出抑制・リサイクルの推進
- グリーン購入の推進
- 環境保全活動への積極的な参加
- 社員への環境教育の徹底

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果 ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度 平成25（2013）年度	直近年度 令和4（2022）年度
二酸化炭素	12,918	9,312

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果 ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度 平成25（2013）年度	直近年度 令和4（2022）年度
二酸化炭素	176,000	167,600

【その他温室効果ガス】

温室効果 ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度 平成25（2013）年度	直近年度 令和4（2022）年度
メタン		
一酸化二窒素	5,780	5,910
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF ₆ NF ₃)		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量（t-CO₂），削減率（%）

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成25(2013)年度)	削減目標		目標年度 (令和12(2030)年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂	12,918	35	4,512	8,406
非エネルギー起源CO ₂	176,000	23	40,480	135,520
メタン				
一酸化二窒素	5,780	23	1,330	4,450
その他 温室効果ガス				
温室効果ガス 実排出量総計	194,698	23	46,320	148,377
温室効果ガス みなし排出量				146,837
目標設定の考え方	2030年度までにCO ₂ 発生量23%の削減率をもとに目標設定			

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

単位：排出量(t-CO₂），売上金額（千円），削減率（%）

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成25(2013)年度)			削減目標	目標年度 (令和12(2030)年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)		削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)
エネルギー起源CO ₂	12,918	0.0015	0.0032	53.8	8,406	5,686,771	0.0015
非エネルギー起源CO ₂	176,000	0.0238	0.043	44.6	135,520	5,686,771	0.0238
メタン							
一酸化二窒素	5,780	0.0008	0.0014	44.1	4,450	5,686,771	0.0008
その他 温室効果ガス							
総排出量	218,130	0.0261	0.0475	45.1	148,377	5,686,771	0.0261
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)			8,440				3,327
目標設定の考え方	2030年度までにCO ₂ 発生量23%の削減率をもとに目標設定						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項目	数値目標	具体的な取組
1	燃料使用量の削減	・ A重油の使用量を5%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温室効果ガスの排出の少ない燃料への転換（例：重油 ⇒ 都市ガス） ・ 廃油の焼却処理時の燃料化 ・ 高効率バーナの使用 ・ 廃熱の有効利用
2	電気使用量の削減	・ 電気の使用量を1%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冷暖房温度の適正管理 ・ 省エネ型電気機器への更新
		・ 購入電力を1%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ コージェネレーションシステムの導入 ・ 太陽光発電設備の導入 ・ 消化ガス発電施設の導入 ・ 廃熱利用

※ 「原単位」で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること。

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1	買電の再エネ特約による契約	2030t-CO2（2022年度実績）
2		
3		

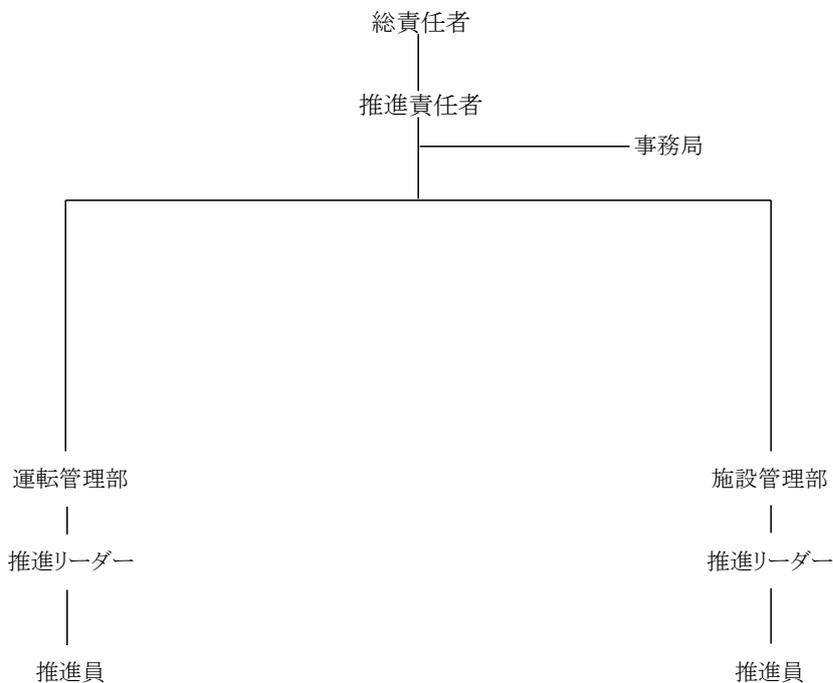
○ その他の取組

	項目	数値目標	具体的な取組
1	電気の使用量の削減	購入電力を2%削減	逆潮流工事による売電開始
2	電気の使用量の削減	電気の使用量を1%削減	コンプレッサの更新
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



b 省エネルギー推進組織の各責任者の明示

総責任者（常務取締役）
推進責任者（工場長）
事務局（エネルギー管理員）
推進リーダー（運転・施設管理部 次長）
推進員（運転・施設管理部 課長）

(2) 実施状況の点検・評価

環境事業部を中心に、毎年温室効果ガス削減計画の取り組み状況の把握、問題点の検討を行う。検討した結果は毎月の省エネルギー報告とともに温室効果ガス発生の対象である燃料・電気使用量とともに管理を行う。

(3) 計画書等の公表

月例定期報告会にて計画書の説明及び実績報告を行う